

DD NEWSLETTER

NO. 1

12 MAY 1983

The Center for Southeast Asian Studies

Kyoto University

[ 1 - 1 ] 一般連絡

予算 昭和 58 年度海外学術調査計画として  
 15,880 千円の予算を申請しましたが、そのう  
 ち 14,200 千円が認められました。その他に  
 京都大学 70 周年記念後援会助成金を 134 千円  
 貰えることになりましたので、合計 14,334 千  
 円がこれまでに確保された予算です。その使  
 用内訳の概要は下記の通りです。

国内旅費	342,300 円
------	-----------

外国旅費	10,862,800
------	------------

(含むタイ人 3 名の旅費)

消耗品費	266,900
------	---------

謝金	1,512,000
----	-----------

(学生, 村民)

通信運搬費	250,000
-------	---------

レンタカー代	900,000
--------	---------

コピー代	200,000
------	---------

合計	14,334,000 円
----	--------------

出張日程 各自の出国、帰国の予定は、別表 1-1 の通りです。

N R C T 去る4月26日付海田氏からの連絡によりますと、「N R C Tの許可は、基本的には、早くもおりました。」ただし、石井、服部、北村、武邑、星野、河野、松藤の7名については、申請書に旅券番号が書かれていない旨の指摘がありました。旅券更新のためであるという理由を伝えると共に、番号決定次第、知らせるよう約束いたしましたので、該当の方は忘れず御連絡下さい。

バンコクの通関で問題になりそうなものを持込む予定の方は出来るだけ早目にお知らせ下さい。N R C Tを通じて交渉可能だそうです。

村便り 海田氏が、House No. 93 ウアン・マハチパイの家を6月16日～1月15日の7ヶ月間借りる交渉を済ませました。林君は、現



在、マーさんの家に下宿して頑張っているそうです。「日本チーム関係派と非関係派が際立ち、村長のみならず全体的に日本人に対して計算高くなっているように見受けられる」そうです（海田氏による）。

気象観測は今日までの間、一日も欠測はないそうです。

中間報告書 まだ残部があります。必要の方はお申し出下さい。

出張手続など 手続は交通公社京都支店、奥田康幸氏が担当しています。電話は(075)341-6331です。5月28日(土)の次回全体集会の際、説明と手続をする予定です。ただし、6月出発の方々には既に連絡をはじめていると思います。

飛行機の予約が確定できない場合が多いようです。多少の日程変更があるかも知れません。今の所、次のようになっています。



宮川 6/16 T G 便 ウ エ イ テ イ ン グ

6/15 発 12/25 帰国の Air India に変更可

能性あり

星川 6/16 成田発 T G 便 な し

6/17 発 8/21 帰国として予約申込中

武邑, 宮崎 7/3 T G 便 ウ エ イ テ イ ン グ 中

口羽 7/18 発, 9/9 帰国予約 O.K.

福井 7/24 発 T G 便 ウ エ イ テ イ ン グ

他は予約準備中。

[ 1 - 2 ] Nong Sim Ban ( N S B ) 調査打合

5月13日(金) 午後3時~ 於 S E A S

出席者 口羽, 宮崎, 舟橋, 武邑, 野間,

須羽, 福井

調査の段取 次の三種の仕事があることを  
確認。

(a) 事前調査 N S B に水田を持つ2戸の

家族構成, 水田・畑・スアンの所在地

の確認, 調査協力依頼など。



## (b) ルーティン調査

(b-1) 毎日の聴取調査 一 昨年の野間  
による生活時間調査を簡略化したもの。

(b-2) 農地における作業の毎日の観察。

(c) 戸別調査 悉皆調査に似た社会経済的  
項目に関する戸別インタビュー。

以上三種を次のように分担する。

(a) 武邑 (7/3 ~ 10/15), 宮崎 (7/3 ~ 9/9), 林  
の3名が村入り次第、真先に行なう。

(b) (b-1) 武邑, 宮崎がはじめ、須羽 (10/3  
~ 12/26) に引継ぐ。

(b-2) 宮川 (6/16 ~ 12/23), 海田, Kanha  
がはじめ、福井 (7/24 ~ 1/23), 河野 (8/1  
~ 11/30), 松藤 (10/3 ~ 12/26), 黒田 (10/3 ~  
12/26) が加わる。

(c) 宮崎が一部、残りを舟橋 (1/15 ~ 3/14)

学生助手の手当 NSB調査を主とする助  
手を次のように考える。農学班は、水田・畑



スアン毎に各1名を確保し、この3名がNSBの毎日のルーティンを含めて、それぞれの農地種に関する他の調査に従事する。3名共7/20から12/23までとするが、内1名はスアンと畑の乾季調査のため3/10までとする。

社会経済班のルーティン生活時間調査と武邑、宮崎、野間の調査のために3名の学生を使う。期間は7/6~12/23とする。それ以外に、ルーティン調査の結果の計算機入力専用の学生アルバイト2人(半日勤務)を雇い、コンケン大学の研究室に置く。

これらとは別にパソコン氏を継続して雇うが武邑氏帰国の10月中旬までとする。

### 必要な準備

(a) 計算機入力方法の検討。パソコンをKKUに置き、専用アルバイトを雇うのが最もよいかどうか。早急に方針決定の要あり。

(b) 生活時間調査のフォーマット決定。時間の刻み、対象家族構成員、活動種類の力



テゴリー、交際相手の氏名、ほど考慮の要あり。この決定は計算機入力方法と関係がある。OMRでは簡単なフォーマットしか利用できない。この件に関し、宮崎、舟橋野間、武邑、福井が5月20日(金)午後、打合せする予定。

(c) 農学班のルーティン観察のフォーマットの作成。計算機入力方法に関し、(b)と同様の問題あり。

経済調査について 宮崎氏は、次の二つの調査を予定している。

(a) Gross Village Production (GVP) の測定  
基本的に経営単位のサンプリング調査ではなく、セクター毎の費用/収益分析を行ない、それに面積を乗じてGVPを求める。米、畑作物、畜産についてのC/B分析は、一昨年度にかなりできているので、以後は面積、頭数を乗じればよい。野菜生産についてはさらに現地調査を必要とする。商業、賃金、仲買、



加工業については悉皆調査を参考とし、補足的調査を行なう。生産の不安定性による年次変動の大きさは、NSB調査によって知ることができると考える。

(b) 農地賃借、売買と土地条件の関係

自然班による土地条件の評価を踏まえ、賃借・売買の際、どの種の土地が優先的に取引されるかを調査したい。

これに対し、いくつかの疑義と提案があった。

まず、セクター毎のC/B分析によるGVPの計測自体はよいとしても、一昨年の調査では信頼度が低いのではないかと。NSB調査によって、労働投入量はかなり正確に実測されるのであるから、それを利用してはどうか。

畑作、野菜、畜産についても、それぞれの調査を利用することが考えられる。GVPを計測することだけを目的とする調査を計画するより、既往のデータ、予定されている調査を



最大限利用することを考えてはどうか。

土地条件と土地の取引の関係も、悪くはないが、農家経営調査にもっと力を入れる方がより有意義ではなからうか。しかし、そのためには経営調査の狙いを明確に定めねばならないだろう。

その他の討議事項 プロジェクト全体の狙い、枠組を明確にしなければならない。福井がたたき台になる案を提出すること。



1-1. 1983年度 現地調査日程

No. \_\_\_\_\_

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	経費区分
1. 石井 米雄								13, 26					科研
2. 福井 捷朗			24						23				科研
3. 口羽 益生			18		9								科研
4. 服部 共生								1	23				科研
5. 矢野 秀雄					15		16						科研
6. 星川 和俊		16		20									科研
7. 前川 俊清				1	30								科研
8. 野間 晴雄				15		1							科研
9. 武邑 尚彦			3			15							科研
10. 舟橋 和夫									15		14		科研
11. 黒田 俊郎						3		26					科研
12. 宮崎 猛			3		9								科研
13. 宮川 修一		16						26					科研
14. 辻井 博								25, 26					学振
15. 星野 敏				1	30								私
16. 松藤 宏之						3		26					私
17. 河野 泰之				1				30					私
18. 須羽 新二						3		26					私
19. 海田 能宏											30		SEAS